

# 原発から30 km圏内の地でEMで安全な米作りへ

福島県田村市都路町、今  
回で何回目の訪問でしょう  
か。表面的には国の除染活  
動は順調に進行しているよ  
うに見えますが、夏草が伸  
び始めた国道わきの休耕田  
が広がる6月下旬の風景を  
みると、福島の復興はまだ  
まだまだと、痛切に感じました。

そして新たにEMによる  
稲作に挑戦する坪井さん  
と、今年から本格的に稲  
作を開始した羽根田薫さ  
んにもお話を聞くことがで  
きました。原発から30 km  
圏内の南相馬市原町地区  
で酪農を営む瀧澤牧場も  
訪ねました。福島復興へ

のキーワードがEMによる農  
業の復興であり、福島復興  
の希望であることをまず  
まず確信しました。

**事例1**  
除染へのEMの  
バイオニアとして  
地域を巻き込んで、  
農業活性化へと



品種は「ひとめづれ」（今泉さんがEM活性液を投入している。）

本誌17号で、コスモファ  
ームの今泉さんと米倉さんが  
「厳冬の中で続けるEM散  
布、春への希望に向かう第  
一歩」として、水田の土づく  
りに向けてEMを散布する  
様子をご紹介しましたが、  
今回は田植えも済み、分け  
つが始まりかけた6月の水  
田を訪問しました。EM散  
布は1枚の水田に毎週およ  
そ100リットル投入してい  
ます。生長は順調で、収穫  
が楽しみです。



福島県田村市都路町 コスモファーム  
今泉智さん、米倉金喜さん



復興推進EM活用モデルとして  
コスモファームが実践する水田に  
掲げられた看板。

## 事例2

### 仮設住まい3年目 EM効果を期待して、 片道40分の水田通い

坪井久夫さんは、酪農でEMを使用していて、EMは牛が風邪をひかならないなど、良い効果があると人づてに聞いていました。昨年、田村市都路町の今泉さんと知り合い、EMを活用し始めました。EMは効果があるという感触があったそうです。

坪井さんは現在も仮設住まいで、今年で3年目を迎えます。仮設住宅から田んぼまで片道40分。農作業できることが一番なので、通うのが嫌だと思ったことはないそうです。当初は水田の作付が制限されていたが、今年は可能となりました。もっとも、作付してもしなくても28年度までは面積に対して補助金(10アール56,000円)が支給されます。都路町20km圏内では68軒のうち3名が作付を開始しました。



福島県田村市 坪井久夫さん(右)

毎週1回EM活性液を投入(100リットル×5枚の水田=500リットル/週)  
EMスーパーセラ発酵C(粒状) 4kg/反 品種:ひとめづめ、ミルキークイーン

南相馬市原町地区馬場は、土の放射能が4000~5000ベクレル、地表の空間線量が1~2μSv/hと高濃度の放射能汚染地区。当時、区長をしていた羽根田薫さんは、震災後、閉塞した雰囲気打破するため、寄りかかせる場所として、グラウンドゴルフ場の放射線量を下げたいと考えていました。EMで放射線量が下がるという情報を本誌で知り、EMに取り組み始めました。NPO法人地球環境・共生ネットワークのEM災害復興支援プロジェクトにより、EM拡大培養機を導入、1トンタンクを4基設置してEM散布を開始しました。4月から10月からグラウンドに散布してから地表での放射線量は13μSv/hから0.6μSv/hまで下がりました。開始後2ヶ月目から効果が始めました。EM活性液



福島県南相馬市 羽根田薫さん



グラウンドゴルフ場のある馬場公会堂から移動したEM拡大培養機でEM活性液を製造。2次培養は1トンタンクで行っています。約3反の水田にEM活性液500リットルを田植え後に投入。月1トン以上散布できればベストだそうです。



除草剤は使用しないのでコナギなどの雑草対策が問題。手づくりの除草装置を付けた管理機で除草対策。

### 事例3 EMで放射能レベルが軽減する効果を実感 本格的に水田の作付を開始

南相馬市原町地区馬場は、土の放射能が4000~5000ベクレル、地表の空間線量が1~2μSv/hと高濃度の放射能汚染地区。当時、区長をしていた羽根田薫さんは、震災後、閉塞した雰囲気打破するため、寄りかかせる場所として、グラウンドゴルフ場の放射線量を下げたいと考えていました。EMで放射線量が下がるという情報を本誌で知り、EMに取り組み始めました。NPO法人地球環境・共生ネットワークのEM災害復興支援プロジェクトにより、EM拡大培養機を導入、1トンタンクを4基設置してEM散布を開始しました。4月から10月からグラウンドに散布してから地表での放射線量は13μSv/hから0.6μSv/hまで下がりました。開始後2ヶ月目から効果が始めました。EM活性液

掲げていますが、羽根田さんは、今年から試験田ということで本格的に水田2haの作付を開始しました。原町地区馬場での米作りは羽根田さんの他にもう1名が挑戦しています。羽根田さんは震災前は福島有機稲作研究会出荷していました。反あたりの一般的な収量は慣行栽培7俵、有機JAS栽培4俵が平均なので、EMでどれだけ収量が増えるか楽しみにしています。作付品種は天の粒。苗作りも自前で行いました。